

# A 適判質疑応答書記載例 ←「追加説明書のまとめ方のイメージ」と一緒に確認のこと！

## 適合を決定できない理由

表 1

建築物の名称	〇〇会社△△△△棟新築工事
構造計算適合性判定受付番号	第 ×××××× 号
建築物の番号	1

表 2

該当図書名	申請書に不備、不明確な点が認められる事項	回 答	該当図書 該当頁等	備考
構造図 S-03	① ----- 計 [A-1] 算書の寸法と構造図が不整合です。	構造図 S-03 を差し替えます。	S-03	■補正 □追加
構造図	② -----図が添付されていません。 [A-3]	構造図 S-15-a を追加します。	S-15-a	□補正 ■追加
計算書 p. 254	③ ----- -----の数値が間違っています。 [A-4]	計算書 p. 245 を差し替えます。再計算の結果、部材の変更はありません。	修-p. 254	■補正 □追加
計算書	④ -----の検討が見当たりません。 [A-6]	-----追加検討した結果、追-p. 1～追-p. 5を追加します。この結果、B5 を追加したので、図面 S-6 を差し替えます。	追-p. 1～ 追-p. 4  S-6	□補正 ■追加  ■補正 □追加
計算書	⑤ -----の荷重は見てありますか。確認して下さい。 [D-1]	荷重を見直し、再出力しました。一貫計算書を差し替えます。またこの結果、大梁 G2 のサイズを変更しましたので、図面 S-10、S-12 を差し替えます。	S-10、 S-12  上部構造 一貫計算 書一式	■補正 □追加  ■補正 □追加
計算書 p. 14	⑥ -----の安全性に問題はありませんか。 説明のみ	----- --と考えており、安全性に問題はないと判断しております。 なお、参考資料を添付します。	付-p. 1～ 12	□補正 □追加  □補正 ■追加
その他 (申請書)	⑦ 申請書第三面の「5. 構造計算の区分」が間違っています。	修正し、差し替えます。	申請書第三面	■補正 □追加

※回答欄は増えても構いませんので、可能な限り丁寧にご記載下さい。

※「該当頁」は、「追-p.1～追-p.5」のように、必ず最終頁までご記載下さい。



[A-4] 計算書の補正(差し替え)例…「変更箇所説明計算書」作成の留意事項

質疑③回答

※必ず、質疑番号を記載して下さい。

(2)

6\_B25  
 スパン長: 2.10m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.3kN/m

0.80 [ 6.3 ] 床荷重【4】  
 ↓ 10.0 ↓ 10.0  
 0.05 2.00

応力 M = 3.4, Q = 15.6, N = 0.0  
 部材 H- 250x 125x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 3-M16 (H.T.B. F10T 一面)  
 A = 37.0, I = 3960.0, Z = 317.0

許容応力度  $f_t = 156, f_b = 156$   
 曲げ検定比  $\sigma_b/f_b = 0.07$ , 端部ボルトの検定比 0.17  
 変位量  $\delta = 0.2\text{mm} = 1/9999$

※階段重量より  
 $P1 = 3.9\text{kN/m}^2$   
 $*2.05\text{m} * 4.97\text{m} * 1/4$   
 $= 9.94\text{kN} \rightarrow 10.0\text{kN}$

7\_SB40 L=6.56  
 スパン長: 6.56m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.6kN/m

P1 P1 P2 P3  
 ↓ 46.046.0 ↓ 16.0 ↓ 6.0  
 2.192.19 1.30 4.86

応力 M = 115.6, Q = 61.2, N = 0.0  
 部材 H- 400x 200x 8.0x 13.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)  
 A = 83.4, I = 23500.0, Z = 1170.0

許容応力度  $f_t = 156, f_b = 156$   
 曲げ検定比  $\sigma_b/f_b = 0.63$ , 端部ボルトの検定比 0.26  
 変位量  $\delta = 11.1\text{mm} = 1/590$

※小梁の設計  
 No.4のせん断力より  
 $P1 = 45.6\text{kN} \rightarrow 46.0\text{kN}$

※小梁の設計  
 No.6のせん断力より  
 $P2 = 15.8\text{kN} \rightarrow 16.0\text{kN}$

※小梁の設計  
 No.5のせん断力より  
 $P3 = 5.5\text{kN} \rightarrow 6.0\text{kN}$

8\_B45 (2F事務所) L=8.52m t80増打  
 スパン長: 8.52m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.7kN/m

(両側) 床荷重【4】 (両側) W1  
 1.10 [ 6.3 ] 1.10 [ 2.5 ]

応力 M = 182.3, Q = 85.6, N = 0.0  
 部材 H- 450x 200x 9.0x 14.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)  
 A = 95.4, I = 32900.0, Z = 1460.0

許容応力度  $f_t = 156, f_b = 156$   
 曲げ検定比  $\sigma_b/f_b = 0.80$ , 端部ボルトの検定比 0.36  
 変位量  $\delta = 20.4\text{mm} = 1/416$

※床荷重【4】  
 電算はS3入力ですが、  
 小梁は安全側としS4で検討する。

※t80増打荷重より  
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$   
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$   
 $= 2.5\text{kN/m}$

※条件を替え、再計算しました

9\_B39 (2F事務所) L=6.93m t80増打  
 スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.5kN/m

(両側) 床荷重【4】 (両側) W1  
 1.10 [ 6.3 ] 1.10 [ 2.5 ]

応力 M = 103.0, Q = 59.5, N = 0.0  
 部材 H- 396x 199x 7.0x 11.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)  
 A = 70.7, I = 19800.0, Z = 990.0

許容応力度  $f_t = 156, f_b = 156$   
 曲げ検定比  $\sigma_b/f_b = 0.66$ , 端部ボルトの検定比 0.25  
 変位量  $\delta = 12.7\text{mm} = 1/545$

※t80増打荷重より  
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$   
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$   
 $= 2.5\text{kN/m}$

9'\_B34 (2F事務所) L=6.93m t80増打  
 スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.4kN/m

(両側) 床荷重【4】 (両側) W1  
 1.10 [ 6.3 ] 2.5

応力 M = 85.6, Q = 49.4, N = 0.0  
 部材 H- 346x 174x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)  
 A = 51.7, I = 11000.0, Z = 638.0

許容応力度  $f_t = 156, f_b = 156$   
 曲げ検定比  $\sigma_b/f_b = 0.86$ , 端部ボルトの検定比 0.21  
 変位量  $\delta = 19.0\text{mm} = 1/364$

※t80増打荷重より  
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$   
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$   
 $= 2.5\text{kN/m}$

※構造計算書の補正(差し替え)の場合は、差し替え前のページ番号は残し、その横に修正ページ番号を追加記載して下さい。

p. 245

修-p. 245

当初の頁を残し、

質疑回答書の「該当頁」を記載する

[A-6] 計算書の追加例…「追加計算書」添付の留意事項

**質疑④回答 ※必ず、質疑番号を記載して下さい。**

○ 方杖(横補剛)の検討 -4

$F_m = 0.02 \cdot C_m$   $F_m$  : 大梁の圧縮割合力の 2% <KN>  
 $C_m = 1.1 \cdot \sigma_y / (0.5 \cdot A_g)$   $C_m$  : 大梁の圧縮割合力 <KN>  
 $\sigma_y$  : 大梁の降伏応力度 <N/mm<sup>2</sup>>  
 $A_g$  : 大梁の全断面積 <mm<sup>2</sup>>  
 $A_h$  : 横補剛材の全断面積 <mm<sup>2</sup>>

位置	G通 3-4	E通 4-5	E通 5-6	6通 E-G	
大梁	2G8	2G2	2G3	2G5B	
部材	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-568X300X12X20
$A_g$ (X10 <sup>2</sup> )mm <sup>2</sup>	157.40	157.40	157.40	157.40	192.50
$\sigma_y$ (N/mm <sup>2</sup> )	235	235	235	235	235
方杖				Z2	
符号	Z16	Z17	Z18	Z2	
部材	L-90X90X10	[-125X65X6X8]	[-125X65X6X8]	L-90X90X10	[-125X65X6X8]
$A_h$ (X10 <sup>2</sup> )mm <sup>2</sup>	17.00	17.11	17.11	17.00	17.11
$A_h e$ (X10 <sup>2</sup> )mm <sup>2</sup>	8.55	8.42	8.42	8.55	8.42
$l_y$ (mm)	17.4	19.6	19.6	17.4	19.6
$L$ (mm)	415	520	520	415	415
$l_x$	23.9	26.5	26.5	23.9	26.6
$L/c$ (N/mm <sup>2</sup> )	151.5	150.1	150.1	151.5	150.7
角度 ( $\theta^\circ$ )	0	0	0	0	0
$1/\cos \theta$	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
N: 軸力 (KN)	40.7	40.7	40.7	40.7	81.1
$\sigma_c/f_c$	0.21	0.21	0.21	0.21	0.26
判定	OK	OK	OK	OK	OK
$\sigma_t/f_t$	0.20	0.21	0.21	0.20	0.26
判定	OK	OK	OK	OK	OK
H	M20	M22	M22	M20	M22
B	M22, M20	70.6	85.5	70.6	85.5
必要本数	0.58	0.48	0.48	0.58	0.60
設計本数	2-M20	2-M22	2-M22	2-M20	

質疑④追-p. 1

応力  $M = 0.0kN\cdot m$ ,  $Q = 0.0kN$ ,  $N = 27.8kN$ (直接入力値)  
 部材 H-175x90x5x8 (SS400)  
 $A = 22.9cm^2$ ,  $I = 98cm^4$ ,  $Z = 21.7cm^3$ ,  $l_{kx} = 2.40m$ ,  $l_{ky} = 2.40m$   
 細長比 強軸 : 33.0, 弱軸 : 116.0  
 許容応力度  $f_t = 235N/mm^2$ ,  $f_c = 103N/mm^2$ (短期)  
 曲げ検定比  $\sigma_c/f_c = 0.12$

質疑④追-p. 2

質疑④追-p. 3

質疑④追-p. 4

一連のものは、連続頁とする。

※「追加」の場合、解答ごと先頭に表紙をつけてすべての頁をまとめ、該当資料に「追加資料 1」「追加資料 2」とする場合も可。再質疑対応などが想定される場合などは、こちらのやり方の方がよい。



**[D-1] 一貫計算書を流し替えた場合…「一貫計算書修正・補正一覧表」の留意事項**

※構造適判中または確認申請での指摘により、一貫計算書を大幅に変更され流し替えられた場合は、追加説明書（当初計算書も有効…）として添付される場合に限り、「D-1 一貫計算書修正補正箇所一覧表」にてご報告下さるようお願いいたします。（添付する記載例を参考にしてください。）

※また、修正内容がモデル全体に大きな影響を与え、部材を変更するなど結果が大きく変わった場合などは、追加説明書には、必ず流し替えた一貫計算書(D-2)を添付して下さい。

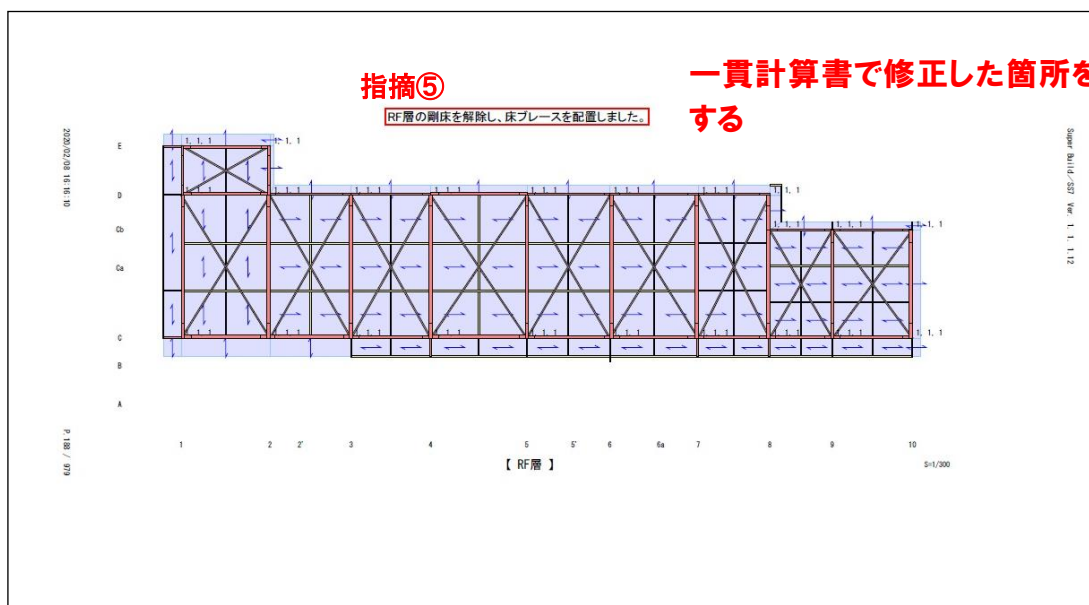
※大幅な変更があった場合は、再度判定員に確認を取ったり、再審査したりする場合があります。

※軽微な場合、比較的変更箇所の少ない追加検討確認の場合は、資料は抜粋版で可。

■構造計算適合性判定審査及び「適判確定後」の確認申請指摘により  
一貫計算書を流し替え、追加説明書として使用する場合の入力修正・補正箇所一覧表

物件名：××××新築工事 作成者：○○○○ 提出日：令和○年○月○日

番号	構造適判指摘 確認申請指摘の別	指摘番号	修正項目	具体的入力修正内容	出力結果で補正のあった箇所	
					計算書	構造図
1	構造 確認	⑩	荷重の訂正	小屋組の「束材・小梁の支点」を集中荷重で入力設定。	P8	
2	構造 確認	⑬	限界変形角	保有水平耐力の限界変形角の設定(1/100)。	P324	
3	構造 確認	61,78,82	建物概要	延べ面積、建築面積等の訂正(構造計算概要書)	構造概要書 P2	
4	構造 確認	85,86	部材種材	B1,B2の部材を訂正	P22,24	
5	構造 確認	88	継手位置	図面と合っていない継手位置の訂正。	P190~194	
6	構造 確認	68,69	荷重の訂正	「庇」と「空調機」の重量の訂正。	P37,366,367	
7	構造 確認	⑪	支点反力	軸力と支点反力の一致	P135,138,13	
8	構造 確認					
9	構造 確認					
10	構造 確認					



※修正箇所が少ない場合、部材の変更等大きな変動がない場合は、抜粋で可とします。

※判定員の指示により、流し替えた一貫計算書を、追加説明書資料として全部送っていただく場合があります。メールでのやり取りの際は、データ便等を活用してお送りください。

**[C] 自主補正のあった場合…「自主補正リスト」の留意事項**

※自主補正が場合は、質疑応答書に追記するのではなく、別途送るリストに「理由」「内容」「補正を行った箇所」等に記載の上、ご提出ください。

※自主補正として扱えるものは、基本、図面上の不整合や符号の間違いなど、軽微なものに限ります。補正内容によっては、軽微なものではなく、計画変更の手続きの対象となる場合がありますので、ご注意ください。判断に迷われる場合は、まずは確認検査機関にご相談下さい。

**■構造計算適合性判定審査後に自主補正を行った場合の修正一覧表 [記載例]**

物件名： \_\_\_\_\_

作成者： \_\_\_\_\_ 提出日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

番号	修正理由	具体的修正内容	補正を行った箇所(具体的に)	
			計算書	構造図
1	部材寸法の誤記	小梁 B5 の寸法修正		S-16
2	伏図に寸法未記入	寸法記載		
3	計算書・図面不整合	ボルト 2-M16→2-M20 に修正	P.3-4	
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				